

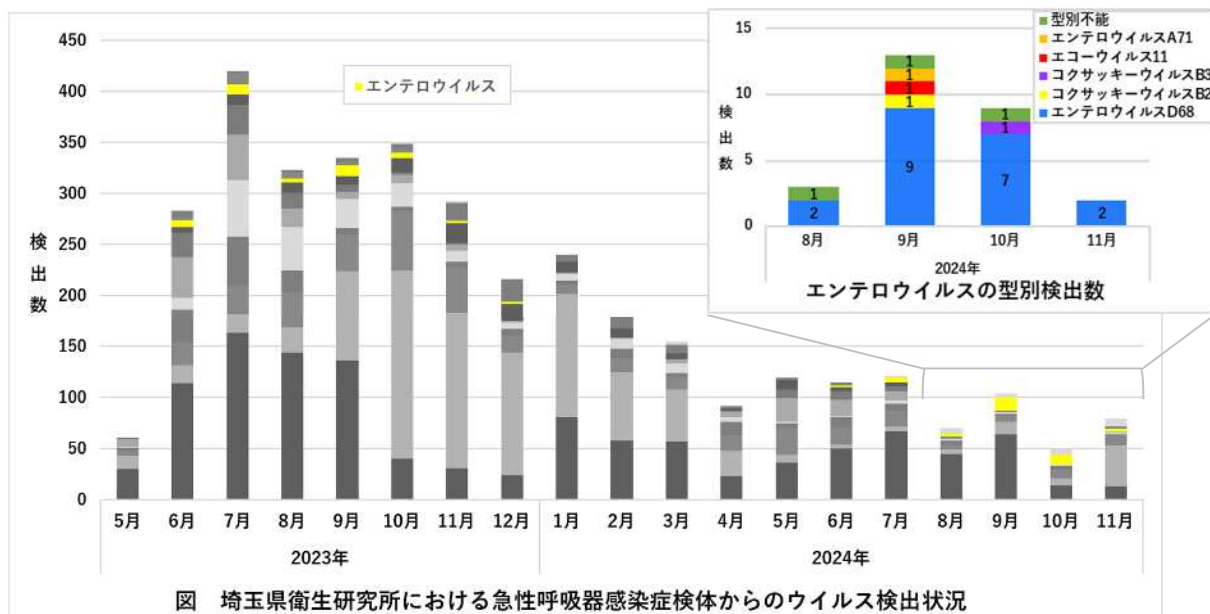
## 急性呼吸器感染症(病原体)サーベイランスにおける

## エンテロウイルス検出状況

埼玉県では、新型コロナウイルス感染症が五類感染症に位置付けられた令和5年5月8日から、小児科・内科病原体定点医療機関に対し急性呼吸器感染症検体の採取をお願いし、インフルエンザやコロナウイルスを含め様々な呼吸器感染症起因ウイルスの検出を行っています。

このうちエンテロウイルスについては、令和5年5月～令和6年8月の月別の検出率が0%～3.0%だったのに対し、令和6年9月は8.7%、10月は9.8%と、明らかな検出率の増加が見られました。そこで、エンテロウイルス VP1 部分領域のシーケンスにより遺伝子型別を行い、どの遺伝子型がどのくらい検出されているか改めて検査しました。

令和6年8～11月に埼玉県衛生研究所でエンテロウイルスが検出された27検体中24検体について遺伝子型別することができました。24検体のうち、最も多かったのはエンテロウイルスD68で20件(83.3%)検出されました。その他、エコーウイルス11、コクサッキーウイルスB2、コクサッキーウイルスB3、エンテロウイルスA71が各1件(4.2%)検出されました。



エンテロウイルス D68 が検出された検体は、0歳～70歳の検体で、幅広い年代から検出されました。症状は発熱が最も多く、次いで咽頭痛、肺炎・気管支炎でした。

エンテロウイルス D68 は五類感染症全数把握疾患である急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）との関連性が指摘されています。また、風邪などの呼吸器感染症の原因ウイルスの一つとしてあげられていますが、現在は手足口病やヘルパンギーナのように感染症発生動向調査でその流行状況が把握できる体制にはなっていません。急性呼吸器感染症（病原体）サーベイランスでは様々な起因ウイルスの検出を行っていることから、これらのウイルスの動向についても報告できることを目指しています。

病原体定点医療機関においては、検体採取についてご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。